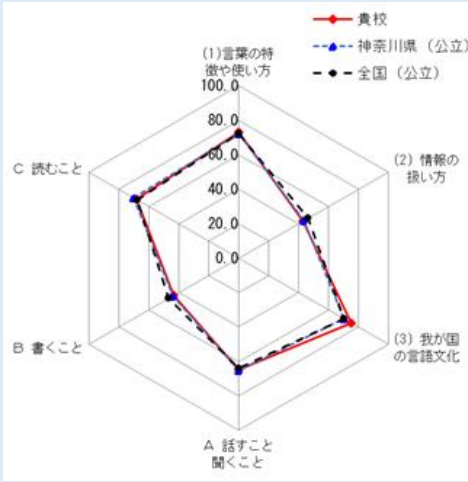


令和4年度全国学力・学習状況調査 問題別調査結果分析

<学習指導要領の領域の平均正答率の状況>

【国語】



全体の平均正答率は県・全国を2ポイント上回る結果です。どの領域も正答率は全国・県と同じ傾向を示しており、県・全国の前を前後しています。

【問題別正答率の分析】

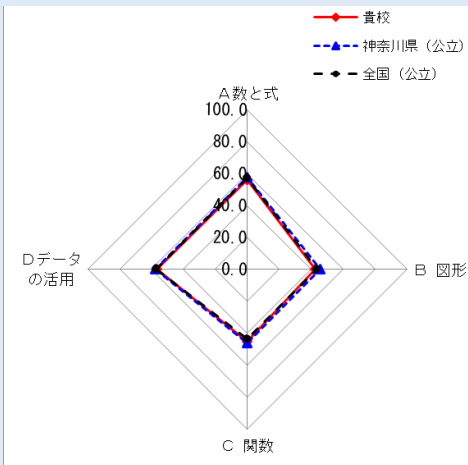
○知識・技能における言語文化の分野が特に優れており、全国平均より5ポイント上回る結果となりました。

△情報の扱い(知識技能)や書くこと(思考・判断力)に課題が見られるので、意図を適切に伝える力をつける必要があります。

毎授業で漢字練習の時間と、定期的に学習の振り返りをする事で、基礎的な力を身につける取組を継続した成果が表れたと考えます。

今後は、事実や根拠、考えや意見といった文章の要素を整理する活動や伝えたい内容に合わせて文章の種類を選択して書いたり、推敲したりする活動を通して、意図を適切に伝える力の伸長を図ります。

【数学】



全体の平均正答率は全国を0.4ポイント、県平均を2ポイント下回る結果でした。どの領域も正答率は全国・県と同じ傾向を示しています。

【問題別正答率の分析】

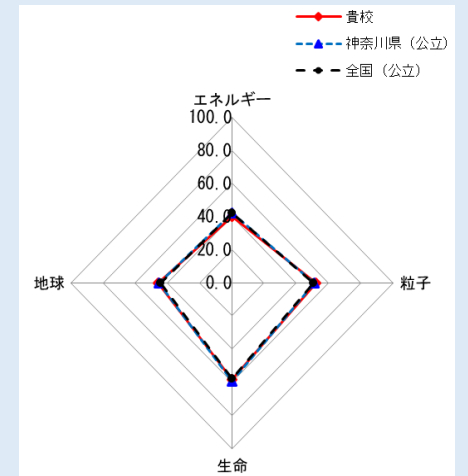
○関数領域の正答率は県平均とほぼ同値で全国平均を1ポイント程度上回る結果でした。

△数と式、図形領域の全般で課題が見られます。特に推論や定理を適切に選択して数学的に説明をする力に課題が発見されました。

基本的な計算等においては力を発揮できる生徒が多いですが、それを数と式や図形、資料の活用の領域に活かす力が課題であると考えます。

それぞれの分野で、考える力・表現する力を身につけるよう、授業では問題の演習を実施していきます。

【理科】



全体の平均正答率は全国を0.7ポイント上回り、県平均と同値となる結果でした。どの領域も正答率は同じ傾向を示しています。

【問題別正答率の分析】

○粒子、生命、地球を柱とする領域は、全国平均を上回る結果となりました。必要な値や情報の読取など、基本的な力が身につけています。

△エネルギーを柱とする領域では全国・県の平均を下回る結果となりました。日常における現象やデータの分析が今後の課題です。

基本的な計算等においては力を発揮できる生徒が多いですが、それを関数や図形、資料の活用に活かす力が課題であると考えます。

それぞれの分野で、考える力・表現する力を身につけるよう、授業では問題の演習を実施していきます。

【総評】 本校では、分かりやすい授業を目指して「授業のユニバーサルデザイン化」、考えの表現力や理解力の伸長を目指した「アクティブラーニング」に取り組んでいます。また、新学習指導要領に対応するために教員の相互の共通理解を進めてきました。

本学力状況調査などの結果分析を踏まえ、教員間の授業参観や意見交換機会を計画的に実行し、教員の授業力向上と生徒の学力定着に努めていきます。